

AI 支援型リーディング・レスポンス

学期を通して、授業で扱った内容に対するレスポンスを複数回提出してもらう。この課題は、各自のスケジュールや関心に合わせて柔軟に取り組めるよう設計されている。

この課題の目的は、AI チャットボットとの対話を通じて、選択した哲学論文への理解を深めることである。この活動は、批判的思考、明確な分析、そして哲学的概念へのより深い理解を促進することを目的としている。

課題の手順

Step 1: 読解と注釈

- 論文を丁寧に読むこと。
- 重要な論点、議論、混乱した箇所、興味を持った箇所などに注釈を加えること。

Step 2: 初期レスポンス (200–300 語)

- 論文の主要な議論や概念を要約した 200～300 語の文章を書くこと。
- 疑問点、懸念点、さらなる説明が必要だと思われる点を明示すること。

Step 3: 対話的ディスカッション

- 論文について AI チャットボットと対話を行うこと。質問を投げかけ、説明を求め、自分自身の解釈を探究すること。
- 単なる Q&A 形式ではなく、柔軟で探索的な対話を目指すこと。
- チャットボットの応答を足がかりとして、論文のさらなる探究へ進むこと。

Step 4: 振り返りレスポンス (200–300 語)

- 200～300 語の振り返りレスポンスを書くこと。このレスポンスには、相互に関連する二つの目的がある。

○ 対話を通じて論文についてどのような理解に至ったかを要約すること。新たに明確になった点、考え方の変化、依然として残っている疑問など。

○ 資料に取り組む方法として、その対話自体について振り返ること。どのような点で理解が深まり、どのように役立ったのか。どのような点で誤解を招いたのか、議論の複雑さを潰してしまったのか、あるいは非生産的な方向へ導いたのか。どのような質問やプロンプトが有効で、どのようなものがそうでなかったのか。チャットボットの応答に対して、どのような場面で自分から押し返す必要があったのか。

後者は前者と少なくとも同じくらい重要である。この課題の目的は、論文への理解を深めることだけではなく、AI チャットボットとの対話が何に向いていて、何に向いていないのかについて、自覚的な理解を発展させることにもある。

提出ガイドライン

提出時には、以下のすべてを一つの文書にまとめること。

1. 初期レスポンス (Step 2)
2. 対話的ディスカッションの記録 (Step 3)
3. 振り返りレスポンス (Step 4)

この課題を最大限活用するためのヒント

- 積極的に読むこと：読みながら注釈を加え、重要な箇所を強調し、疑問や反応を書き留めること。
- 考えを整理すること：対話を始める前に、自分の初期的な考えや疑問を整理しておくことで、より焦点の定まった対話になる。

- 会話として取り組むこと：チャットボットとのやり取りを、本当の対話として扱うこと。応答に対してさらに質問し、興味を持った点をより深く掘り下げること。
- 丁寧に振り返ること：対話後には、得られた洞察について時間をかけて振り返ること。自分の理解がどのように変化したかを考えること。
- チャットボットの応答を足がかりとして使うこと：不明な点が残っている場合には、遠慮せず追加の説明を求めること。
- 多様な視点を検討すること：対話の中で提示されたさまざまな視点について批判的に考え、それらが自分の理解にどのように寄与するかを検討すること。

チャットボットとの対話は、真剣かつ詳細なものでなければならない。理解を深めるために真摯な努力がなされている場合と、単にできるだけ早く終わらせるための形式的作業として扱われている場合、あるいはチャットボットを単なる「Q&A マシン」として利用している場合との差は明確に現れる。後者のような形で行われた課題は、この課題の要求を満たさない。